

自治体の総合計画案パブリックコメントにおけるワークショップ企画の実践

ー滋賀県米原市における第2次総合計画策定プロセスを事例にー

Practice report of the public comment workshop for making of the comprehensive plan in the local governments

: Case study of secondary comprehensive plan formulated in Maibara city, Shiga prefecture

萩原 和*

Kazu Hagihara

This report is a practical report applying the workshop method in consolidating public comments on the formulation of comprehensive plans of local governments. The comprehensive plan is positioned as an upper-level plan among the various plans formulated by local governments. Therefore, there are many general themes, and the amount is very large. To focus on the discussion, at first, the workshop member voted for several policies that they were interested in. Next, focusing on the themes that had a lot of scoring points, they summarized opinions and ideas by utilizing the biaxial chart. Finally, a series of achievements was shared throughout the presentation. Very diverse achievements were demonstrated. Among them, the same policy was chosen for the two groups, but the deliverables in the biaxial charts were largely different. In the future, it is necessary to devise measures to extract policy themes and how to share information among groups. Based on this finding, we would like to improve the planning and operation method.

Keywords: Workshop, Public comment, Comprehensive plans

ワークショップ、パブリックコメント、総合計画

1 はじめに

市民協働によるまちづくり活動の意義が議論されて久しい中、より住民主体な取り組みとして、地域政策の立案プロセスにも地域住民が積極的に関与する事例が見られるようになってきた。例えば、高知県佐川町の総合計画の策定においては、積極的に地域住民の関与がなされ、その成果そのものが総合計画立案の教科書として出版されるなどしている。

地域住民が政策に関わるきっかけづくりとしては、「パブリックコメント¹⁾」という仕組みがある。要約すれば、行政や政策策定に関する専門家(大学研究者やコンサルタントなど)の一部の属性の関係者が政策立案してきたものを、地域住民がチェックし、意見や要望を伝える手法である。しかしながら、これまでのパブリックコメントは、ウェブなどに一定期間、政策案、施策案などの資料を掲載し、それに関わる意見要望を集めることに留まっていた。いわばアリバイ的な意見徴収に過ぎなかった側面があった。

このように、専門家などの一部の属性の関係者のみが策定するプロセスを、如何に地域にオープンにし、協働の取り組みを推進するかは、これからの日本のまちづくりを考えるうえでも重要と思われる。ただし、10年毎に策定される総合計画に限って言えば、立案におけるスケジュール上のスパンも長く、継続的な検証取り組みとして位置づけることが難しい案件となっている。そのため、現状で学術分野での検証はほぼ無い状況にあった。

今回、筆者が所属する滋賀県立大学が、滋賀県米原市との「自治体等との連携協力に関する協定」を取り結んだことを契機として、総合計画策定におけるパブリックコメントワークショップ(以下、パブコメWS)の企画運営に携わることができた。本報告では、企画運営に関わった米原市の実践における試行錯誤、工

夫などをまとめつつ、取り組みの意義や課題について整理する。

なお、先述の佐川町における総合計画策定との違いは、地域住民、専門家、審議会の役割分担のプロセスや自治体の規模(行政区域や人口密度)などである。佐川町は、平成の大合併を経験せず、単独町政の道を選択した。旧来からの行政区域を基盤とする地域住民と行政との協働関係を活かしたボトムアップ的な方式を採用し、十分な時間をかけて多様なテーマを据えたWSを実践しながら計画を策定した。特に地域課題で重要となるテーマについては、その後、具体的な事業化に結び付けるなどの成果を挙げている。

一方、平成の大合併を経験した米原市では、第1次総合計画において、旧4町の均衡ある発展を踏まえた取り組みを推進してきた経緯²⁾を踏まえながら、第2次総合計画(案)が立案され、2017年9月に策定された。旧4町の各地域の実情を踏まえた米原市の策定プロセスは、平成の大合併を経験した多くの他自治体にも共通する側面を有していると考えられる。ただし、人口減少社会が到来し、これまでの論理的枠組みによる地域自治や意思決定では克服できない地域課題も多く生じるようになってきた。その意味において、米原の将来像を描く機会としての第2次総合計画(案)づくりを、地域住民が主体となって企画運営できる仕組みができないかという考えが地域と行政との協働の中で醸成されてきた点は、佐川町とも共通する部分である。

米原市では、こうした課題意識を持ちながら、第2次総合計画を策定するにあたり、同市生涯学習課が窓口となっている市民大学講座の「ルッチまちづくり大学」の在校生、卒業生のネットワークに注目した。そもそもこの市民大学は、文化教養よりも、まちづくり活動の実践を重視したプログラムを提供してきた。今回

* 正会員・滋賀県立大学人間文化学部(University of Shiga Prefecture)

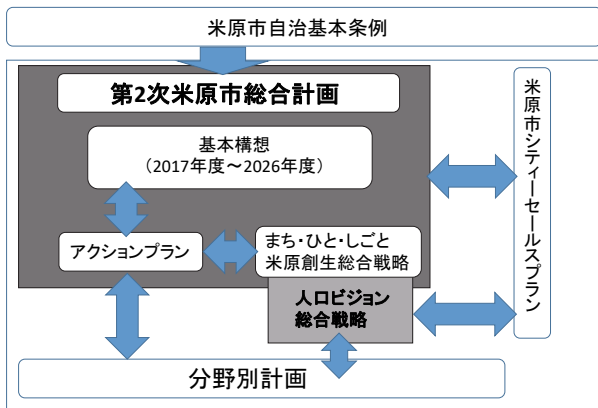


図1 米原市総合計画とその他計画との関係図
 (米原市第2次総合計画(概要版)より引用)

■米原市パブリックコメントワークショップ企画
 担当者: 森川誠(米原市政策推進課(当時))、小寺真司(米原市政策推進課(当時))
 企画アドバイザー: 谷口嘉之(ルッチまちづくりネット)

■滋賀県立大学公募型地域課題研究
 代表: 萩原和(滋賀県立大学)
 研究分担者: 上田洋平(滋賀県立大学)
 地域連携研究員: 田野智和(平成27-28年度担当、米原市生涯学習課(当時))
 竹本沙代(平成28年度担当、米原市政策推進課(当時))
 関沢匡司(平成27年度担当、米原市政策推進課(当時))

図2 ワークショップ企画のメンバー構成
 (企画づくりと課題研究の両輪で実施した体制)

表1 ステイクホルダーごとの時系列的な動き

時系列	総合計画審議会	行政	大学	市民	
				WS参加者	パブコメのみの参加者
2015年6月～	市長からの諮問	政策推進課におけるパブコメのあり方検討	米原市との地域課題研究で市民大学の人材育成を調査研究		
	総合計画(案)の審議・検討	総合計画(案)WSの検討【1】	行政との協働(大学の連携協定の活用)デザイン・カレッジ【2】	市民大学(ルッチまちづくり大学)卒業生の開講【3】	
		市民WS(2回分)の試行的な取り組みの検討【4】	市民向けのファシリテーション技法に関するワークショップ(市民WS当日のファシリテーター向け)【5】	ルッチ大学に在籍する卒業生のファシリテーターの研鑽【6】	
2015年7月～	市民WS及びパブコメを取り込んだ総合計画(案)の取りまとめ	WS成果運営補佐と成果取りまとめ(データ化)【7】	WS当日の運営進行【8】	WSによる成果物と当日参加者によるパブコメ作成【9】	同時期にウェブ等を介したパブコメ募集に対する回答
2015年8月	市長への答申	総合計画策定に向けた相互調整	地域課題研究として成果取りまとめ		
2015年9月～	総合計画の策定と執行				

の囲み線が本報告が扱う部分

のパブコメ WS においても、ここで育成された地域人材が、行政では対応できない地域住民とのコーディネート役として WS の企画運営に関与した。

以上のように、米原市における総合計画の策定プロセスは、初期の段階は行政主導の取り組みであるものの、WS 自体の推進体制は、住民主導に近い枠組みで運営されたと考えられる。この詳細については、次項以降で述べる。

2 米原市市民WSに至る経緯

総合計画とは、まさに向こう10年(前期5年、後期5年)のまちづくりの方針を示したものであり、このもとで、各種の計画づくりがなされる。米原市においても他の自治体と同様に、図1に示すような位置づけがなされており、平成の大合併以降で第2次となる総合計画の策定に向けた準備を行っていた。

表1は、総合計画策定までを時系列的かつ属性ごとに整理分類したものである。2017年に第1次総合計画が終了するにあたり、その後の総合計画づくりを策定するための審議会が2015年6月に立ち上げられた。先述の通り、そもそも第1次の総合計画は、平成の大合併直後からの計画であり、また旧4町(米原町、近江町、伊吹町、山東町)が新市としてまとまりのある自治体として機能させることを重視した内容であった。第2次米原市総合計画策定に向けた取り組みを推進するにあたり、担当課である政策推進課では、2015年7月に設立された米原市、滋賀県立大学、米原市の市民大学卒業生が立ち上げたルッチまちづくりネットの三者連携による「米原デザイン・カレッジ」の枠組みを活用した新たな計画づくりの方向性を模索しつつあった。森川誠氏らはじめとする同市政策推進課(当時)のメンバー、ルッチまちづくり大学事務局を担当する田野智和氏ら同市生涯学習課(当時)のメ

ンバー、ルッチまちづくりネットの谷口嘉之氏や滋賀県立大学関係者(筆者および上田洋平助教)との意見交換を通じて、新たな総合計画(案)の策定プロセスの方向性を検討した(図2)。

なお、この意見交換に呼応するかたちで、ルッチまちづくり大学の卒業生たちが企画運営している「人材ノ森集会」との協働のあり方を模索し始めた。また、滋賀県立大学側もルッチまちづくり大学卒業生が関与できる取り組みとして、パブコメ WS の有効性に注目し、その後の人材育成システムの契機になるような試みとして協働していく方向性が固まった。(表1の【1】、【2】、【3】)

ポイントとしては、米原デザイン・カレッジの設立趣旨に立ち、地域人材を活用したワーク進行とし、特にこれまでルッチまちづくり大学で育成されてきた多様な人材を登用し、WS の経験値(知)を積み上げること、さらには、得られたノウハウを他の地域活動にも波及する機会と捉え、積極的に多様な主体が関与することを重視した点である。

しかしながら、総合計画(案)を題材として WS を行うこと自体、複雑なタスクを強いることとなる。特に、WS においては、参加者自身のスキルも当然のことながら、グループとしてファシリテートしていくキーパーソンが存在が不可欠となる。そこで、総合計画ワークを実践する前段階として、2回の市民 WS (第1回は2018年7月20日(月)、第2回は2018年8月2日(日))を実践することからファシリテーション能力のレベルアップに取り掛かった。この際、ルッチまちづくり大学卒業生のネットワークは、企画段階から積極的に関与するとともに全体進行におけるサポート役としてもその役割は大きかったといえる。(表1の【4】、【5】、【6】)

行政側は、パブコメ WS において、大学側の運営進行で得た成果物(模造紙や音声記録)をテキストデータ化した(表1の【7】、

日程：2016年6月25日（土）13：30～16：00
 （ファシリテーターレクチャー 12：30～13：00）
 場所：米原市ルッチプラザ（滋賀県米原市長岡1050番地1）
 参加人数：42名
 主催：米原市
 共催 ルッチまちづくりネット、滋賀県立大学
 ※米原市と滋賀県立大学による連携・協定に関する協定に基づく、
 「米原デザイン・カレッジ」の事業として実施
 ※ルッチまちづくり大学の公開講座として本事業と同時開催
 （生涯学習課との連携事業）



図3 当日の日程と当日のワークショップ風景

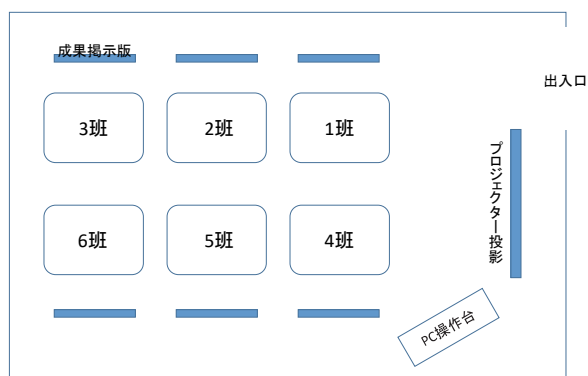


図4 会場レイアウト図

表2 タイムスケジュール

（米原市政策推進課が作成したWS当日の配布資料データを引用）

時間	内容
開会 13:30～14:10 (40分)	●第2次米原市総合計画基本構想（案）について ●ワークショップの進め方について
ステップ1 14:10～14:20 (10分)	●自己紹介 自己紹介は、自己紹介シートを使用 ①私は今、〇〇をしています。（何でも結構です。） ②米原市に〇〇という思いを持っています。（〇〇と感じていた。） ③10年後は米原市で〇〇を楽しみたい（していたい）と思っています。
ステップ2 14:20～14:40 (20分)	●みんなで総合計画（案）を見てみよう！ 個人ワークとグループワークによる得点化（詳細手順は図6）
ステップ3 14:40～15:20 (40分)	●総合計画（案）の施策展開をみんなで確認しよう！ 2輪図による意見、アイデアの探掘り（詳細手順は図6）
ステップ4 15:20～15:40 (20分)	●まとめた内容について発表をお願いします。（情報共有） ・グループで話し合った経過を踏まえ、模造紙の内容を簡単に説明してください。（発表時間：1グループ当たり2分間） ・グループ発表の講評
ステップ5 15:40～15:55 (15分)	●パブリックコメントを書いてみよう。 ・総合計画（案）について、あなたの意見や提言、賛同できることなどを意見等提出様式に書いてください。
閉会 15:55～16:00 (5分)	●閉会あいさつ

【8】。また総合計画審議会においては、徴収した意見を取り込みながら、答申に向けて精査を進めた。

なお、市民の多くは、これまでパブコメに対する回答の機会が用意されていたとしても、積極的な回答までには至らなかった。同市の他のパブコメでの回答数は数件に留まっており、その増加を促進する上でも重要なWSだったといえる（表1の【9】）。

結果として、WS後のパブコメの件数は46件（22人）となり、大きな成果を得た。特に、パブコメ提出実績として、WS当日受付分が17件（15人）となっており、これまでの状況を大きく変えるインパクトを与えた。

3 総合計画におけるパブコメWSの位置づけ

米原市では、他の自治体と同様、さまざまな計画づくりにおいて、パブコメを実施してきた。しかしながら、WSでの成果をパブコメに反映する枠組みはこれまで経験したことがなかった。そこで、政策推進課では企画段階で、WSの方針として、以下の位置づけを運営者側、参加者側双方で確認を行い、当日のスケジュールを進めた。具体的には以下に示す内容である。

（1）確認事項その1

パブコメは、市民が総合計画に対して自らの意見を反映することができる最後の機会である。このため、パブコメに合わせた市民WSを開催し、第2次米原市総合計画（案）を市民と共有し、幅広い観点から多様な意見を集めることで、市民の夢や希望が詰まった総合計画することを目的とする。

（2）確認事項その2

まちづくりは人づくり。パブコメWSでは、参加者の市民がファシリテーターを担い、まちづくりのリーダーとして、意見形

成を援助促進できる人材として関与する。

なお、当日は、総勢42名が参加した。催事日程等の情報は図3のとおりである。グループワークとして各テーブルに5～7名程度が着座できるようなレイアウトとし、6班に分かれてワークを進行した（図4）。

WS実施においては、評価シート、丸シールなどのツール類が多くあり、十分な作業スペースを確保した。

当日のタイムテーブルは表2のとおりである。前述のように、各テーブルのファシリテーターの事前レクチャーの時間を確保した。ここに参加したメンバーは、前回の2回分の市民WSで一通りのワーク経験のある参加者、市民大学の受講生、卒業生で司会進行に優れたメンバーが受講した。また、この時間内に、午後から始まるパブコメWSの段取りも共有した（「ステップ1」）。

総合計画ワークの開催にあたっての意義やこれまでの経過について、行政側から説明があったのち、司会進行を大学側スタッフが引き継ぎ、アイスブレイクの時間を約10分間行った。各テーブルに着座しているメンバーの属性は多様であるため、共通したテーマで設定しやすいものから「自己紹介シート」を構成した。

以上のような時間を経て、本題となる「ステップ2」、「ステップ3」に取り組んだ（図5）。ここでのポイントは、総合計画（案）を読み込む時間（個人ワーク）を確保しながら、自身の目線で「施策目標分析シート」を活用し、重点部分を探索することである。具体的には図6に示すようなステップを踏まえたWSである。



図5 ラベルシールの貼り出し作業の様子

全体を通した時間は、参加者の負担等を考慮し約2時間半の構成となった（なお、WS時の配布資料の手順を引用²⁾）。

(3) 点数の集約

まず、A3にプリントされた総合計画（案）の見取り図から、
 a)自分の関心があること、b)効果が期待できること、c)みんなの理解と協力がいることの観点で、各自が必要と思う施策目標を5つ選択した。（図6の手順【1】）

そのうえで、得られた5つを分析し、該当する項目に丸をつけることで、ポイント化（数値化）を行った。一連の作業は個人ベースの部分である。（図6の手順【2】）

こうして各個人が作った分析シートを共有し、ラベルシールで累積加算していく作業が次の段階である。こうして、各班が座るテーブルごとでどのような観点で、施策を重要視しているかを可視化することができる。（図6の手順【3】）

ところで、市民ワークにおいて、自由な意見やアイデアを募ることは、市民のモチベーションを維持する上でも重要である。しかしながら、総合計画が扱う項目は幾多に渡り、すべてを平等に扱い、議論するには膨大な労力と手間がかかる。また、総合計画や基本計画は、上位計画に相当し、実施レベルの施策と比較しても抽象的な文言が多い。これは、地域政策の協働において必ず突きつけられるジレンマである。こうした理由から、点数方式を採用し、参加市民の興味関心がどこにあるか表明してもらい、その上で上位に位置づけられるテーマについて、グループワークをしてもらい2段階によるワーク構成とした。この際、シール（赤：自分の関心のあること、緑：効果が期待できること、青：みんなの理解と協力がいること）の3種類、10枚以内で投票とした。これは、アンケート調査と同様、表明選考などで判断できる数は、3〜5個程度という人間の行動特性を配慮し、無理のない範囲で表明選考してもらうことを意図している。例えば、3種類をそれぞれ選好したとして、9枚となる。当然、趣向が異なるので、人によっては、緑シールのみもある。これについては、その人の判断にゆだねる事とした。

(4) 2軸図による意見・アイデアの深堀り

一連の得点化を通じて、最上位となった施策を掘り下げるワークとして、ステップ3（図6の手順【4】）を実施した。具体的には、グループで、個々が重視した観点を共有しながら、模造紙「第2次米原市総合計画基本構想（案）施策展開をみんなで確認しよう」

これからのまちづくりに必要と思う施策目標を5つ選択してください。

【1】

次の観点から、これからのまちづくりに必要と思う施策目標を5つ選択してください。

a) 自分の関心があること
 b) 効果が期待できること
 c) みんなの理解と協力がいること

ステップ2 (アイスブレイクのステップ1を経た後)

必要に応じて「②施策目標分析シート」を利用してください。

【2】

② 施策目標分析シート

①の表から選択した5つの施策目標番号「O-O」を転記してください。

施策目標番号	自分の関心があること	効果が期待できること	みんなの理解と協力がいること
1-1	O	O	
2-1	O		
5-2	O		
6-1	O	O	O
6-3	O	O	O
計 (O印の計)	5	3	2

※この3項目で分析してください。
 ※該当するものはO印を付けてください。
 ※O印は5個以上10個以下としてください。

【3】 模造紙「③施策目標分析集計表」にラベルシールを貼付し、最も数が多いものを選びます。

【3】 第2次米原市総合計画基本構想（案） 施策目標分析集計表（第1班）

1 健やかで安心して暮らせる支え合いのまちづくり【福祉】

施策	自分の関心があること	効果が期待できること	みんなの理解と協力がいること	合計
1-1 安心して子育てが女性や若者が暮らしやすい（子育て支援）	4	2	1	7

ステップ3

【4】 第2次米原市総合計画基本構想（案） 施策展開をみんなで確認しよう！ 第1班

1 健やかで安心して暮らせる支え合いのまちづくり【福祉】

1-1 安心して子育てが女性や若者が暮らしやすい（子育て支援）

図6 ワークの手順一覧

(米原市政策推進課が作成したWS当日の配布資料データを引用)

う!」の2軸(期待度(高い・低い)、現状(できている・できていない))に合わせて、作成した付箋コメントを貼付した。こうして「見える化」した模造紙を俯瞰することで、「付箋をここへ貼付した理由」や基本構想(案)に書かれた施策展開の方向性について、「これは賛成できる」、「私ならこうしたい」などが理解しやすくなる。

一連の成果を、各グループで発表し、参加者全員で総合計画(案)のパブコメの成果の一部として反映させた。

4 ワーク成果に対する考察³⁾

全体傾向としては分散させることができた。表3のとおりである。なお、1、2班については、以降の分析考察で内容検証する

表3 2軸図のWS成果

班番号	選択した「政策-施策」	第1象限	第2象限	第3象限	第4象限	類型
1班		図7に記載				一部空欄
2班		図8に記載				4象限すべて記載
3班	政策-施策2-2 ともに学び輝き合う人と文化を育む、まちづくり(教育・人権) 誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち(歴史文化)	①文化・芸術の振興 ●米原の文化の再認識 ●認識不足・理解されていない ②歴史文化遺産の保存活用 ●いくつもの城跡があるが、その整備は十分か? ●PR不足	②歴史文化遺産の保存活用 ●観光と歴史の連携 ●若者への継承 ■心の通い「やりがい」「楽しさ」 ●「楽しい」「やりがい」が心の源にない...続かない ●「遺産」という言葉を消す ・文化遺産は自己満足で全国発信せんではないやん ●「活用」をより大切にすべきでは ・貴重な文化財があってもなかなか活用されていない、PRしていく事が大切 ①文化・芸術の振興 ●芸術を学ぶ継承するシステムはあるか? ・科目の中で位置づける ●高等教育機関との連携→地元の見直し ●子ども達に地域学習不要?必要になつてから興味が出たらいいかな	②歴史文化遺産の保存活用 ●歴史文化遺産は認知されているか ●補助金、助成金 ●一冊にまとめたものがない、ほしい(冊子)	①文化・芸術の振興 ●文化や芸術に触れる機会がない(特に若者) ●組織の改良 ●遺跡や城跡へのアプローチはしやすいか?!	4象限すべて記載
4班	政策-施策1-1 健やかで安心して暮らせる支え合いのまちづくり(福祉) 安心して子育てができ、女性や若者が輝くまち(子育て支援)	●妊娠、出産、予防接種などについて、選択肢がある事、選択の自由を認める事、情報提供 ③親子の健康づくりの推進 ●ゆりかごタクシーのような産院までの交通手段の確保 ●不妊に対する手厚い対応 ●不妊で悩む世帯へのサポートをもつと、少子化対策、都市部との医療格差を少しでも減らす ●出産前の妊活休暇制度	①子育てと子育て環境の充実 ●都市公園 ●不安と思っても大人はガマンする... ●大人の意識を変える。普通のところで遊べるように 環境 ②子育て家庭の支援 ●男女が共に...地域性もあるが、意識を変える事重要 ●周りの理解(育休) ⑤子ども・若者の育成支援の充実 行政 ●生まれ育った環境によって子どもの将来が左右されないような支援体制は重要 ●貧困(親) ●結婚相談より青年団を作る ●地域の中でのニードやひきこもりの若者がいるか、いないか知らない! ●行政だけではなく、様々な居場所 地域・民間	④障がいのある子どもへの支援の充実 ●対象者の把握が不十分ではないか? ●障がい児(者)と健全児(者)が共にいられる環境を増やしていく	●コミュニケーションの取り方 家族、友人ともしっかりコミュニケーションを取れば ●妊娠中、産後、自分達(親)の価値観を考え直す機会を作る	一部空欄
5班	政策-施策1-1 健やかで安心して暮らせる支え合いのまちづくり(福祉) 安心して子育てができ、女性や若者が輝くまち(子育て支援)	②子育て家庭の支援 ●社会全体で子どもを育てると言うが、地域に子どもが少ない(少ない) ●経済的負担の軽減は充実している(保育料、医療) ●会社での育児休暇制度の充実を図る ●ハローワークを輪番制に ①子育てと子育て環境の充実 ●定年退職者、高齢者の子育てをサポートとしての活用 ●安全な遊び場が足りない? ●昔の遊びを地域の老人が教える。 ●子育て環境のよさをもつとPRする。 ●子育て環境はある程度充実していると思う ●外遊びしている子どもが少ない	①維持してほしい ②内容(取組)を高めてほしい	④障がいのある子どもへの支援の充実 ●乳幼児期から小学校、中学校へのつなぎに不安がある ●普段から近所付き合いで相談できる環境が少ない ⑤子ども・若者の育成支援の充実 ●そもそも、若者に就労意識や家庭をもつ意識がない ●将来への不安(養育費、学費)	若者に響いているのか?	4象限すべて記載
6班	政策-施策6-1 まちづくりを進めるための基盤(都市経営) 多様な主体による協働のまちづくりの推進(総論・共創のまちづくり)	③まちづくりの応援者の増加 <応援者の増加中> ●地元の高校生や大学生を巻き込む魅力発掘プロジェクトを立ち上げる ●米原市主催のビジネスコンテストで米原市で起業、創業! <きっかけづくり> ●積極的なきっかけづくりが必要である	①総論・共創のまちづくりの推進<つながり> ●まちづくり活動されている人をつなげる仕組みが欲しい。<発信> ●市民全体に知られていない ●市民、地域、企業など市民の総意を発表できる場作り、イベント ●人が人を呼ぶ(誘い合い)、来る者問わず ●企業への働きかけ ●低い人に合わせる、できないに合せたもの	③まちづくりの応援者の増加 <情報発信> ●インターネット、TVを通じて全国に米原をアピール ●応援者の情報発信がされていない ●参加したいと思う行事、宣伝、知ってもらおう ●各自の活動で知られてない事が多い ●全国に市の魅力を情報発信し、市外に米原応援隊を作る ●魅力があるんだから、もっと知ってもらおう	①総論・共創のまちづくりの推進 <提案> ●米原市協働事業提案を非営利からビジネスに変え、「米原Newビジネスコンテスト」にする ●市民の提案を積極的に取り入れる行政の取り組みの更なる推進 ●日常的に思う事がすぐに届く仕組みがほしい ●まちづくりのアイデアが浮んだ人が提案しやすいように提案BOXを設置	4象限すべて記載

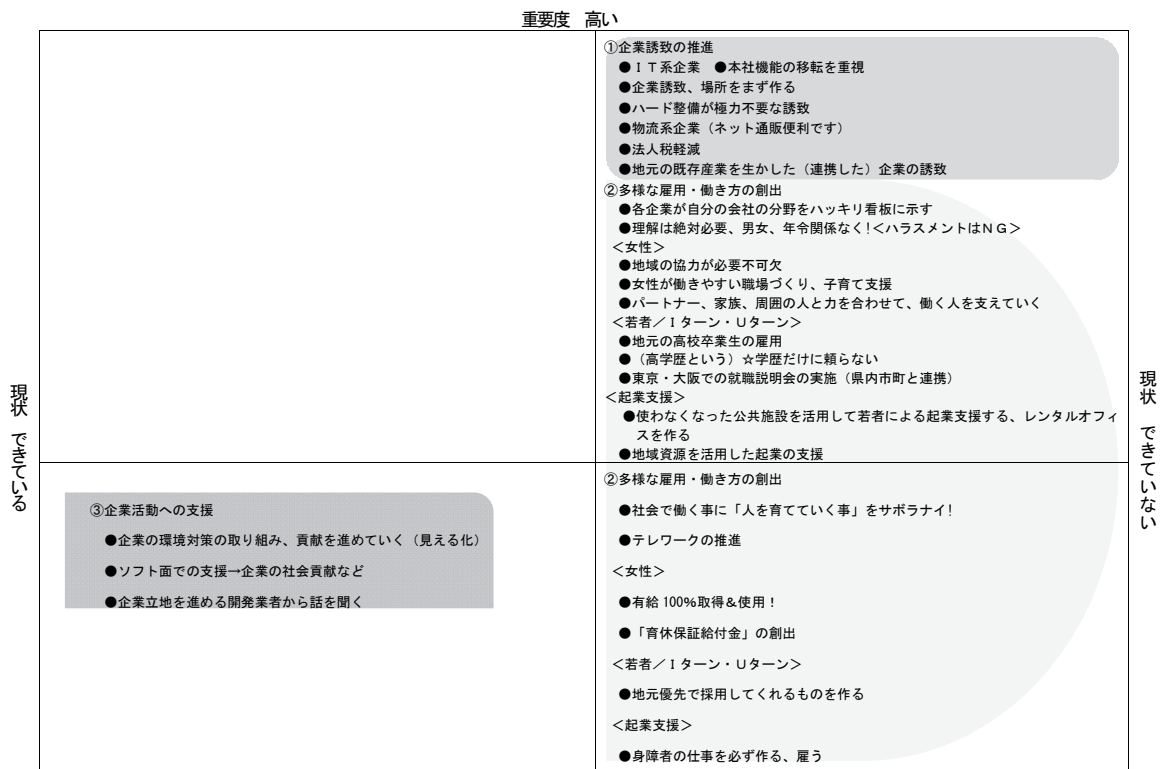
ために、一覧表では省略した。全体進行としては、当初計画通りに政策、施策の一番得票数の多かったものに絞りつつ深掘りしながら、具体的なアイデアや意見を集約することができた。この点に関しては、シールを3種にしたこと、トータル枚数を10枚とすることで選択肢を確保したことが機能したといえる。また、作業時間としても、議論するターゲットを絞ったことによって、十分な時間を確保することができたと思われる。

その一方で、ステップ2については、深掘りするワークの進行において課題が浮き彫りとなった。表のテキスト情報を比較しても、班によっては、その成果物の形態に差が生じた。具体的にみると、4象限に分けたフレームワークは、「4つの象限がバランスよく埋まる場合」、「一部の象限に空欄がある場合」の2つに分類された。つまり、グループ内の課題共有、興味関心など、複合要因によってグループごとに偏りが生じたと考えられる。そこで、全6班のうち、1、2班の成果物の内容を比較する中で、どのような違いを生じたか、2軸図の状況を把握するとともに、当日の発表者の録音データの議事録をもとに、班の中でどのように議論

が展開したのかを整理する。

図7および8は、1、2班の成果物をテキストデータとして整理したものである。結果として、2つの班とも同じ政策を選択した。1班は、第1象限が空欄であるのに対して、2班は、すべての象限において記述がなされたという点で、大きな違いを生じている。具体的にそれぞれの班の特徴を整理する。

まず、1班の録音データのテープおこしデータ(表4)を見てみると、施策がどのような形で反映されているのかという現状分析として、特に、「多様な雇用」について議論が展開されたことがわかる。このテーマの中では、機会としての就職説明会のソフト事業が存在するの否か、また公的施設などの場が存在するの否かなどの観点で議論が進んだ。この観点からすると、ニーズがあるのにも関わらず、現状では達成していない状況にあることが結論としてまとめられている。結果、第1象限の部分である、「重要度が高く、現状ができていない」という施策がないという結論が導かれていた。ただし、現状分析に留まらず、現状のニーズから、どのような仕事のあり方があり得るのかについても議論がな



重要度 低い
 図7 1班の2軸図

(図8とともに、米原市政策推進課でまとめられた資料を引用の上、筆者が一部加筆)

表4 1班の発言内容のテキストデータ
 (表5とともに、WS当日のテープおこしデータ部分の抜粋)

発表内容	
1班	<p>1班は「4-4 多様な働き方、働く場所、働く機会を創出するまち(雇用/労働)」にテーマが決まりました。</p> <p>①企業誘致の推進、②多様な雇用・働き方の創出、③企業活動への支援のうち、一番意見が多かったのは「②多様な雇用・働き方の創出」でした。メインとして、女性と若者に関する意見が一番多く出ました。私は意外に思ったところがあります。米原から、東京・大阪への就職説明会は実施しているかどうかということ。そういうところは今はない、できていないよねと、そうすると、全体的にできていないという構図になってしまいました。若者や女性がどんどん働きやすくなれば、もっとまちは活気づくのではないのでしょうか。</p> <p>主だったところで、起業支援という意見が色々な視点から出ました。地域資源を活用した起業支援、使わなくなった公共施設を活用し、若者が利用できるようにという支援。また、レンタルオフィス活用による起業支援というもの、今のところ聞いたことがありません。こういった支援策ができていくといいのではないかと思います。</p> <p>また、一般企業において、身体障がい者の人を必ず雇うということが本当にできているのかということに着目しました。実際には、一般企業でも少ないのではないかと。ゆえに、できていないということになります。身体障がい者などは、重要性は高いのですが、できているとは言えない。このため、「できていない」の象限の方に付箋が貼られています。</p> <p>あとはテレワーク、いわゆる在宅のお仕事に関する意見です。女性に多い例ですが、赤ちゃんと小さくて外に出にくい方、また、ずっと寝たきりの方が家族にいらっしやって介護をされている場合などへの対応が考えられます。勤務時間の短縮がある勤め先等もあると思うのですが、こういう在宅でのワークもなかなか実際には聞かないため、できていないと思いました。</p>

れており、第1象限が埋まらなかったがために議論が停滞したとは言えない。むしろ、課題が明確になり、メンバー間の意見交換がしやすくなった可能性がある。その点が垣間見えるのが、「テレワーク」や「在宅でのワーク」などのキーワードである。WSを通じて、どのようなニーズに対して、関連キーワードが想起されるのかは、市民それぞれの人生経験や課題意識に基づく。その意味で2軸図に描画された内容が投影されている点において、これまでのウェブのよる個人の見解集約とは異なるグループワークならではの意見共有やブラッシュアップの側面が浮かび上がった事例といえるだろう。

一方、2班は、4つの象限を埋めるような議論の中で、グループ内のパブコメをまとめ上げた。発言内容から窺い知ることができる点は、個人の「職業観」という上位概念を発端としてメンバー同士が議論を始めたことである。その中で、個人ごとに施策の達成度が異なることを共有しながら、議論を進めたところが1班と違う結果を生み出したようである。また、政策評価として、

大規模企業を誘致できたか否かという観点だけでなく、小規模であっても雇用を生み出す主体的な関わり方に興味関心が傾けられた。その上で、企業が、まちにどのようなことをしてくれるのかという観点に留まらない視点の重要性にグループ全体が気づきを得たことである。点数化で上位に位置づけられた政策や施策は、参加者メンバー全員が総意として位置づけた課題テーマではない。場合によっては、他のテーマに関心を持っていたメンバーもいたかもしれない。しかしながら、興味関心が遠い状況を、より自身に近い地域課題として引き合わせる仕組みとして、この班はうまく4つの象限を活用したといえる。さらに、各象限ごとのつながりに注目しながら、各要素間どうしの関係性や、相互補完関係をグループ全体として情報共有できたといえるだろう。

以上のように同じテーマを選択しても、グループ内の興味関心、ファシリテーターの特性によって大きく異なることがわかった。その意味において、グループワーク後のワールドカフェ（各グループの成果共有のためのWS手法の一種）の時間設定は重要と

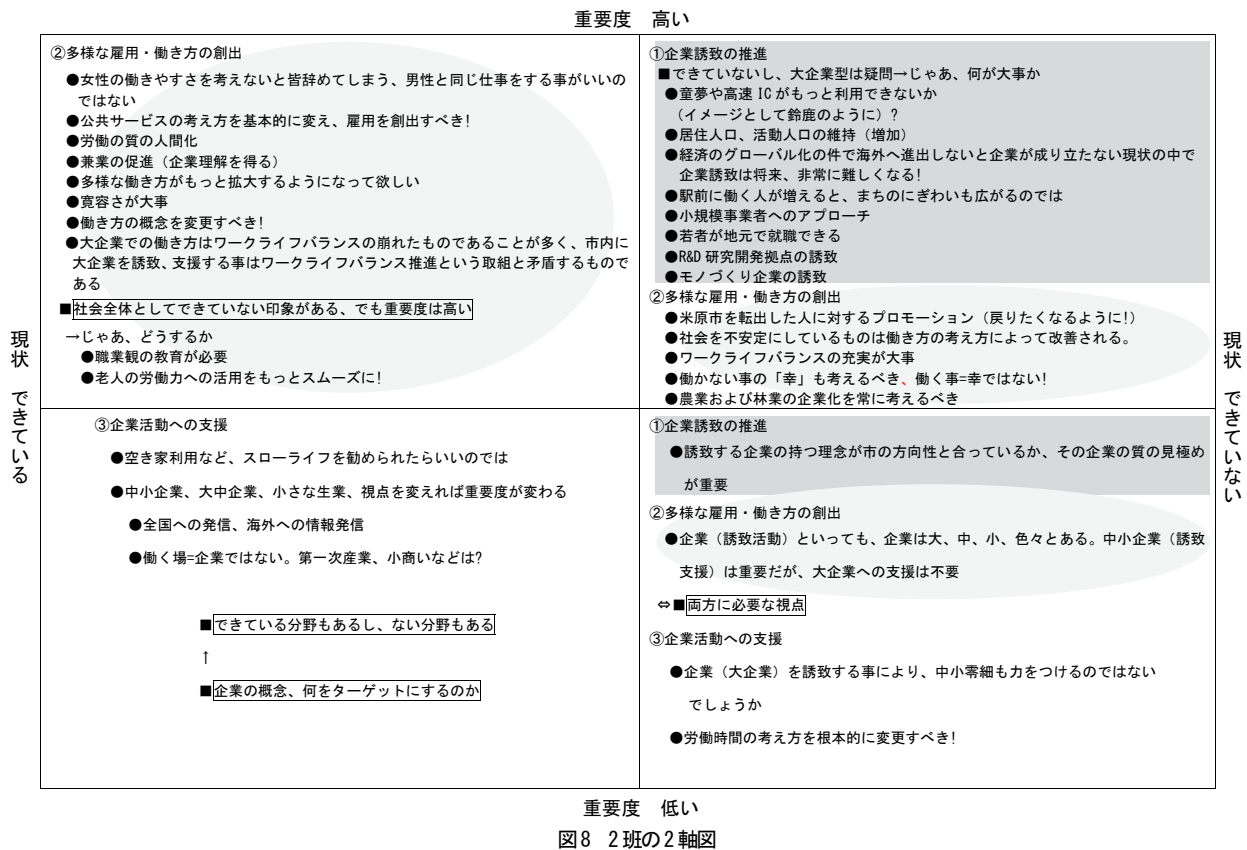


図8 2班の2軸図

表5 2班の発言内容のテキストデータ

発表内容	
2班	<p>2班も1班と同じく、地域の魅力と活力創出のまちづくり、「4-4 多様な働き方、働く場所、働く機会を創出するまち」を選びました。2班では、皆さん、胸に手を当てていただいて、自分が今している仕事は幸せかどうか考えていただければいいかなという内容になりました。最終的に職業観によって、それぞれの施策ができていない、できない、重要性の高い低いは変わってくるということです。分かりやすく言うと、「①企業誘致の推進」は、米原市では全体としてできていないといえるのではないかと。しかし、できていないのは真ん中寄り、ちょっと判断がつかないところがあります。でも重要性は高い。それぞれ個別で見ると、全体で見ると変わってくることもあり、判断しにくい。ただ、やはり、社会全体としてやっばりできていないといけない。要は、働いていて本当に自分は満足していますか、ワークライフバランスが取れていますかということです。ワークライフバランスはフィフティフィティという訳ではなく、人により様々であると思うので、そういう整え方ができたらと思います。従来型の大企業で働いて、収入も増えてという在り方もあるかもしれませんが、そうでない在り方もある。そういうところで、多様な雇用・働き方を整えていけるようにする。そこで、問題提起として大事なのは職業観。そういうことについて、社会として見直していかなければならないという意見が出ました。</p> <p>「③企業活動への支援」についてですが、まさに「①企業誘致の推進」と一緒ですが、何をターゲットとするか、どういうものを事業にするかによって変わってくるというところでちょうど真ん中だと。で、ちょっと低いところもある。できていない分野もあるし、できていないという分野もあるということです。①の項目と重複するところもありますが、今までの大企業などの企業活動に少し疑問があると。でも、やはり、誘致するなら大企業を持っていくと効果はありますよと。以上、色々な考え方がありますよという報告でありました。ありがとうございました。</p>

思われ、そのタイミングにおける情報共有が、アウトプットとしてのワーク成果にも作用しうると思われる。

5 まとめ

本報告は、地方自治体の総合計画策定におけるパブコメの集約に際して、WS手法を適用した事例を紹介した。WS自体は、当日に計42名(グループとしては、6班)の参加があり、総合計画審議会で議論され出来上がった草案をもとにしたWSが展開された。総合計画は、自治体が策定する上位計画に位置づけられる。総論的なテーマが多く、またその分量は非常に多いのが特徴として挙げられる。こうした題材をWSで議論すること自体、これまで取り組まれることはほぼなかった。そこで興味関心を持った政策、施策の案に得票する仕組みを援用して、議論を絞り込むことにした。そのうえで、2軸図を活用した議論の深掘りと成果物のプレゼンテーションを行った。

一連のプロセスを振り返ると、今後の課題として、ワールドカフェなどの各班の情報共有も重要と思われ、また継続的な計画づくりのノウハウ共有、総合計画の進捗チェックの機会が求められる。ワークの実践報告として、一連の手順や意図を示した。以上をまとめると、3つの課題に整理できよう。

(1) フレームワークとしてポイント化(数値化)の精緻化

今回のWSでは時間の制約上、3つのシール(赤、緑、青)で10枚以内と条件付けを行ったが、この妥当性についてはまだ検証の余地があると思われる。総合計画ならではの包括的で広範な内容を効果的に議論するためにも、フレームワーク手法の更なる精緻化や妥当性の検討が必要であろう。

(2) 意見徴収の積み上げ及びファシリテーターの養成

本来ならば、WS前にタウンミーティングなどの意見徴収の積み上げなどが考えられる。これについては十分な時間がまず必要となる。さらには、ファシリテーターの育成が必要であり、継続的に技術を研鑽できるプログラムづくりが求められる。この受け皿としては、市民大学であるルッチまちづくり大学の修了生のネットワークがある。このネットワークを活かさない手はないであろう。総合計画の策定にあたっては、約8年後にまた更新がある。こうした機会を想定しながら、まちづくりの枠組みづくりが重要になるだろう。

(3) 各計画との連動を意識した総合計画の理念共有の場づくり

住民参加型の取り組みとしての計画づくり、政策づくりといっても、市民の視線はより具体的な地域活動に目が向けられるというジレンマがある。つまり、スタート段階でかなりの壁が存在するということである。WSにおいて、市民の自由な感性、アイデア出しの場づくりなどを重視するスタイルは尊重しつつも、計画づくりにおける総合計画の位置づけや各種基本計画の策定は、地方自治法等の法律に基づく根源的なルールづくりであることを、市民と行政が共有することがまず必要となろう。行政が単なる役所言葉の羅列で留めるのではなく、計画づくりの段階で、画一的な冊子、周知方法ではないアプローチを選択肢に加えていくことから壁がなくなる。高知県佐川町の場合もこうした壁を取り払う一つの事例と思われる。

最後に、米原市における総合計画を題材としたWS形式のパブコメづくりは、まだ全国でも数件しかない事例である。特に今回のWSは、10年に一度策定される総合計画をテーマに実施された。まさに、米原市のこれからの10年を考える上でも非常に貴重な機会であったと思われる。米原市の市民大学として、地域人財育成プログラムを掲げた「ルッチまちづくり大学」がはじまって15年余りの月日が流れ、そのプログラムを巢立った人財が今回のWSの企画運営、ファシリテーションに深く関与した。こうした循環が、今後とも地域活動の随所に見られるようになれば、必ずや米原市の市民協働の取り組みは質と量ともに充実したものになると思われる。今後の課題として、類似する市民協働の場で、得られた手法をさらに適用しながら、米原らしいまちづくり支援の枠組みを見出すことが求められる。

簡単ではあるが、ご協力いただいた関係各位に御礼申し上げます。なお、一連の研究は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」による滋賀県立大学公募型地域課題研究(平成27、28年度)の助成によって実施された成果⁹⁾をもとに再分析、加筆修正したものである。

補注

- (1) パブリックコメント(public comment): 公衆の意見。また、公的機関等が命令・規制・基準などを制定・改廃する際に、事前に広く一般から意見を募ること。意見公募手続き。パブコメ。PC。[補説]国の行政機関が命令や規制等を定める場合には、行政手続法により、その案および関連資料を事前に公表し、一定の期間を設けて広く一般の意見を求めることが義務づけられている。多様な意見・情報・専門知識を集め、公正な意思決定に役立てることが目的。地方公共団体でも条例を制定して同様の手続きを導入している。(デジタル大辞泉の解説: <http://dictionary.goo.ne.jp/jn/179099/meaning/m0uf/>)

参照日 2018年11月26日

- (2) 第1次米原市総合計画(基本構想・前期基本計画)策定時の資料「新市まちづくり計画から総合計画等への展開の考え方」の中で合併前に法定の協議会が旧市町村の課題等を踏まえ、合併後の新市が一体的なまちづくりを速やかに確立するために策定される「市町村建設計画」の補完新たなニーズへの対応として「第1次総合計画」の意義が謳われた。

<http://www.city.maibara.lg.jp/material/files/group/2/81356212.pdf>

更新日 2017年11月30日、参照日 2018年11月26日

参考文献

- 1) チームさかわ(著)、寛裕介/issue+design(監修)(2016): みんなでつくる総合計画:高知県佐川町流ソーシャルデザイン、学芸出版社、1-167、2016
- 2) 米原市政策推進課(2016): 第2次米原市総合計画策定に係るパブリックコメントワークショップ(当日の配布資料)
- 3) 米原市政策推進課(2016): 第2次米原市総合計画策定に係るパブリックコメントワークショップまとめ(WSの成果報告資料)
- 4) 萩原和(2017): ルッチまちづくり大学で育まれた地域人財のすがた、1-30、滋賀県立大学地域共生センター